

H. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

該当なし

I. 知的財産の出願・登録状況

該当なし

表 第3回 お元気チェック結果概要

		ボランティア		参加者		全体		
			%		%		%	
		71		170		241		
基 本 属	男性	15	21.1	28	16.5	43	17.8	
	女性	56	78.9	142	83.5	198	82.2	
	平均年齢	66.8±5.3		74.8±6.0		72.5±6.9		
	サロン参加きっかけ(複数選択)							
		町の広報	32	45.1	79	46.5	111	46.1
		地区の掲示板	1	1.4	19	11.2	20	8.3
		回覧板	15	21.1	51	30.0	66	27.4
		包括支援センターを通じて	18	25.4	18	10.6	36	14.9
		知人・友人の誘い	26	36.6	86	50.6	112	46.4
		サークル・会の人誘い	17	23.9	16	9.4	33	13.7
		老人会を通じて	1	1.4	19	11.2	20	8.3
		民生委員のすすめ	1	1.4	7	4.1	8	3.3
	家族のすすめ	1	1.4	8	4.7	9	3.7	
	講演会聞いて	3	4.2	5	2.9	8	3.3	
	ケーブルテレビみて	0	0.0	4	2.4	4	1.6	
性	交通手段							
		歩行	20	28.2	91	53.5	111	46.1
		自転車	15	21.1	42	24.7	57	23.7
		バイク	8	11.3	8	4.7	16	6.6
		自動車	27	38.0	27	15.9	54	22.4
	不明	1	1.4	2	1.2	3	1.2	
性	サロンまでの所要時間							
		15分圏	67	94.4	159	93.5	226	93.8
		30分圏	4	5.6	11	6.5	15	6.2
健 康	通院							
		通院週1回以上	7	9.9	41	24.1	48	19.9
		未満	50	70.4	111	65.3	161	66.8
		行っていない	14	19.7	18	10.6	32	13.3
	サロン参加後							
	少なくなった	1	1.4	12	7.2	13	5.5	
	変わらない	64	91.5	139	83.2	203	85.6	
	増えた	5	7.1	16	9.6	21	8.9	
行 動	普段の外出頻度							
		週複数回	70	98.6	146	86.4	216	90
		1回以下	1	1.4	22	13.0	23	9.6
		していない	0	0.0	1	0.6	1	0.4
	サロン参加後							
	増えた	26	36.6	44	26.2	70	29.0	
	変わらない	42	59.2	110	65.5	152	63.1	
	減った	0	0.0	2	1.2	2	0.8	
	分からない	3	4.2	12	7.1	15	6.2	
指 標	1日歩行時間							
		15分続けて歩ける	65	91.5	155	91.7	220	91.3
		30分未満	23	32.4	65	38.2	88	36.5
		59分	27	38.0	51	30.0	78	32.4
		89分	11	15.1	33	19.4	44	18.3
	90分以上	10	14.1	21	12.4	31	12.9	
指 標	転倒							
		何度もあり	4	5.6	11	6.5	15	6.2
		1度あり	9	12.7	24	14.2	33	13.7
		なし	58	81.7	134	79.3	192	79.7
		転倒に対する不安大	33	46.5	93	56.0	126	53.2
		椅子から何も持たず立てる 階段何も持たず昇れる	66	93.0	139	81.8	205	85.1
		59	83.1	98	57.6	157	65.1	

		ボランティア		参加者		全体		
			%		%		%	
心 理 社 会 指 標	主観的健康感よい	65	91.5	142	83.5	207	85.9	
	うつなし	60	84.5	132	77.6	192	79.7	
	生活機能							
	老研式活動能力指標13点満点	48	67.6	76	44.7	124	51.5	
	IADL5点満点	70	98.6	145	85.3	215	89.2	
	IA4点満点	53	74.6	101	59.4	154	63.9	
	SR4点満点	65	91.5	120	70.6	185	76.8	
	リーダーとして行事企画運営可	39	54.9	43	25.4	82	34.0	
	会の世話係や会計可	55	77.5	66	39.0	121	50.2	
	1人で計画たて旅行可	46	64.8	57	33.5	103	42.7	
	薬の管理可	71	100.0	166	98.8	237	99.3	
	会計・家計を管理可	71	100.0	158	92.9	229	95.0	
	年金・税金申告書1人で作成可	57	80.3	116	69.0	173	72.2	
	洗濯可	71	100.0	165	97.1	236	97.9	
	洗濯物・食器の整理可	71	100.0	165	97.1	236	97.9	
	手紙や文章書く可	70	98.6	148	87.1	218	90.5	
			ボランティア		参加者		全体	
				%		%		%
	サポート	参加しはじめ除く	全体59		全体141		全体200	
サロン参加後								
	気遣ってくれる人増	36	61.0	91	64.5	127	63.5	
	あげる人増	44	74.6	65	46.1	109	54.5	
	手助けしてくれる人増	24	40.7	46	32.6	70	35.0	
	あげる人増	37	62.7	71	50.4	108	54.0	
	役立情報教えてくれる人増	39	66.1	80	56.7	119	59.5	
	教えてあげる人増	35	59.3	55	39.0	90	45.0	
	新たな知り合い増加							
	10名以上	33	55.9	11	7.8	44	22.0	
	6-9名	10	16.9	13	9.2	23	11.5	
	1-5名	15	25.4	99	70.2	114	57.0	
	いない	1	1.7	18	12.8	19	9.5	
	おしゃべり相手の増	56	94.9	119	84.4	175	87.5	
	気持ち通じ合うこと増	49	83.1	115	81.6	164	82.0	
	気分すっきりする日増	40	67.8	109	77.3	149	74.5	

武豊町憩いのサロン・お元気チェック

武豊町「憩いのサロン」参加者の皆様へ調査ご協力をお願い

武豊町「憩いのサロン」は、町民の皆様が、いきがいを持って健康で社会参加できることを目的に介護予防対策の一環として、平成19年5月から6月にかけて町内3会場で開始されました。

本調査の目的は、2007年度に引き続き「憩いのサロン」参加者とその協力者の方を対象として、介護予防の効果を評価するうえで必要となる資料を得ることです。皆様方のご協力により得られた貴重なご回答は、武豊町の今後の介護予防事業に反映したり、このような評価をすることを求めている厚生労働省などに報告したりするときに使います。どのような場合においても、本調査にご協力いただいた皆様方個人のお名前やご回答が、特定されることは決してありません。また、データの処理につきましては、星城大学と日本福祉大学の関係者が責任をもって担当し、データの取り扱いには、細心の注意を払います。

ご多忙とは存じますが、本調査の趣旨をご理解いただきご協力をよろしくお願いいたします。

本調査に対するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

星城大学 リハビリテーション学部 作業療法学専攻

竹田 徳則

電話 052-601-6000

どちらかを○で囲んでください あなたは：ボランティア・参加者

あなたのお名前を教えてください。 _____

【問1】 あなたの身体状況についておうかがいします。あてはまる番号一つに○をつけてください。

1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか。

1. とてもよい 2. まあよい 3. あまりよくない 4. よくない 5. とてもよくない

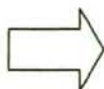
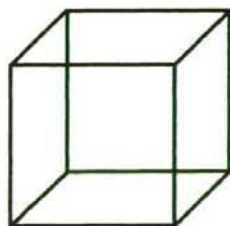
2) 現在の病院・診療所への通院はどのくらいの頻度でしていますか。

1. ほぼ毎日 2. 週2～3日 3. 週1回程度 4. 月1～2回 5. 年に数回 6. していない

3) 2) の頻度はサロン参加前と比べて以下のどれに該当しますか。

1. 少なくなった 2. 変わらない 3. 増えた

【問2】 下の図と同じ図形を、右側にお描きください。



【問3】 「憩いのサロン」への参加についておうかがいします。

1) あなたが「憩いのサロン」に参加するようになったきっかけは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 町の広報 2. 地区の掲示板 3. 回覧板 4. 地域包括支援センターを通じて
5. 知人・友人の誘い 6. サークルや会の人の誘い 7. 老人会を通じて 8. 民生委員のすすめ
9. 家族のすすめ 10. 講演会で聞いて 11. ケーブルテレビを見て 12. その他

2) サロンへの参加頻度について一つに○をつけてください。

1. ほぼ毎回 2. 2ヶ月に1回程度 3. 3ヶ月に1回程度 4. その他
5. 参加し始めたばかり 6. わからない

3) サロンへの主な交通手段についてあてはまる番号一つに〇をつけてください。

1. 歩き 2. 自転車 3. バイク 4. 自動車(送迎含む) 5. タクシー 6. その他

4) 3)の方法で自宅からサロンまでは何分くらいかかりますか。

1. 15分圏 2. 30分圏 3. 45分圏 4. それ以上

**【問4】 「憩いのサロン」に参加するようになってからのことをお聞きします。
あてはまる番号一つに〇をつけてください。**

1) 「憩いのサロン」に参加するようになってから新たに知り合った人はいますか。

1. いない 2. 1~2人 3. 3~5人 4. 6~9人 5. 10人以上

これ以降、参加し始めたばかりでよく分からないという人は、3に〇をつけてください。

2) 「憩いのサロン」に参加するようになって、おしゃべりする相手が増えたと思いますか。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない 4. 思わない 5. まったく思わない

3) 「憩いのサロン」に参加するようになって、少しは人の役に立っていると思いますか。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない 4. 思わない 5. まったく思わない

4) 「憩いのサロン」に参加するようになって、あなたは周りの人と気持ちが通じ合うことが増えた
と思いますか。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない 4. 思わない 5. まったく思わない

5) 「憩いのサロン」に参加するようになって、一緒に何かに取り組む人が増えたと思いますか。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない 4. 思わない 5. まったく思わない

6) 「憩いのサロン」に参加するようになって、これから何かやりたいと思うことが増えましたか。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない 4. 思わない 5. まったく思わない

7) 「憩いのサロン」に参加するようになって、気分がすっきりする日が増えたと思いますか。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない 4. 思わない 5. まったく思わない

8) 今の「憩いのサロン」の一度の参加人数についてどう思われますか。

1. 多すぎる 2. やや多い 3. ちょうどよい 4. やや少ない 5. 少ないすぎる

8)で1. 2を回答した方は次の9)へ、3~5を回答した方は、問5へおすすみください。

9) 8) で「1. 多すぎる」「2. やや多い」とお答えになった方におたずねします。

運営ボランティアが増えれば、開催日を増やすことで、一度の参加者を少なくすることができる
と見込まれます。あなたがボランティアになって開催日を増やすことをどう思われますか。

1. 場合によっては中心になってやってもよい 2. 可能な範囲で協力してもよい
3. どちらでもない 4. 興味はあるが参加できない 5. やりたくない
6. 既にボランティアとして協力している

【問5】 「憩いのサロン」に参加するようになってからの参加者・ボランティアとの関係に
ついてお聞きします。あてはまる番号一つに○をつけてください。

参加し始めたばかりでよく分からないという人は、3に○をつけてください。

1) 「憩いのサロン」に参加するようになって、あなたのことを気遣ってくれる人は増えたと思えますか。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない 4. 思わない 5. まったく思わない

2) 反対にあなたが気遣ってあげる人は増えたと思えますか。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない 4. 思わない 5. まったく思わない

3) 「憩いのサロン」に参加するようになって、あなたが病気などで困ったときに手助けしてくれる人は増えたと思えますか。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない 4. 思わない 5. まったく思わない

4) 反対にあなたが誰かが病気などで困ったときに手助けしてあげる人は増えたと思えますか。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない 4. 思わない 5. まったく思わない

5) 「憩いのサロン」に参加するようになって、あなたの生活にいろいろと役立つことを教えてくれる人は増えたと思えますか。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない 4. 思わない 5. まったく思わない

6) 反対にあなたがいろいろと生活に役立つことを教えてあげる人は増えたと思えますか。

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらでもない 4. 思わない 5. まったく思わない

【問6】 あなたの日常生活についておうかがいします。あてはまる番号一つに○をつけて
ください。日ごろしていない場合には、もしやるとしたらできるかどうか考えて、
お答えください。

1) 自分で食事の用意ができますか。

1. はい 2. いいえ

- 2) 請求書の支払いができますか。————— 1.はい 2.いいえ
- 3) 銀行貯金・郵便貯金のお出し入れが自分でできますか。————— 1.はい 2.いいえ
- 4) 本や雑誌を読んでいますか。————— 1.はい 2.いいえ
- 5) 健康についての記事や番組に関心がありますか。————— 1.はい 2.いいえ
- 6) 友達の家を訪ねることがありますか。————— 1.はい 2.いいえ
- 7) 家族や友だちの相談にのることがありますか。————— 1.はい 2.いいえ
- 8) 病人を見舞うことができますか。————— 1.はい 2.いいえ
- 9) 若い人に自分から話しかけることがありますか。————— 1.はい 2.いいえ
- 10) 日用品の買い物ができますか。————— 1.はい 2.いいえ
- 11) 新聞を読んでいますか。————— 1.はい 2.いいえ
- 12) 周りの人から「いつも同じ事を聞く」など物忘れがあるとされますか。————— 1.はい 2.いいえ
- 13) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることができますか。————— 1.はい 2.いいえ
- 14) 今日が何月何日かわからない時がありますか。————— 1.はい 2.いいえ
- 15) バスや電車、あるいは車を運転して、出かけることができますか。————— 1.はい 2.いいえ
- 16) リーダーとして、何かの行事の企画や運営を行うことができますか。————— 1. はい 2. いいえ
- 17) 何かの会の世話係や会計係を務めることができますか。————— 1. はい 2. いいえ
- 18) 見知らぬ場所へ1人で計画を立てて旅行することができますか。————— 1. はい 2. いいえ
- 19) 薬を決まった分量、決まった時間に飲むことができますか。————— 1. はい 2. いいえ
- 20) 家計のやりくりなど家計を管理することができますか。————— 1. はい 2. いいえ
- 21) 年金や税金の申告書を1人で作成することができますか。————— 1. はい 2. いいえ

22) 自分で洗濯できますか。 _____ 1. はい 2. いいえ

23) 洗濯物・食器のなどの整理ができますか。 _____ 1. はい 2. いいえ

24) 手紙や文章を書くことができますか。 _____ 1. はい 2. いいえ

【問7】 あなたの外出や運動についておうかがいします。

1) 普段あなたが外出する頻度はどのくらいですか。あてはまる番号一つに○をつけてください。

1. ほぼ毎日 2. 週2~3日 3. 週1回程度 4. 月1~2回 5. 年に数回 6. していない

2) 1) の頻度は、憩いのサロンに参加するようになって変わりましたか。一つに○をつけてください。

1. 増えた 2. 変わらない 3. 減った 4. 分からない

3) この1年間に転んだ経験がありますか。

1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない

4) 転倒に対する不安は大きいですか。 _____ 1. はい 2. いいえ

5) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。 _____ 1. はい 2. いいえ

6) 階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか。 _____ 1. はい 2. いいえ

7) 15分位続けて歩いていますか。 _____ 1. はい 2. いいえ

8) 平均すると1日の合計で何分くらい歩きますか。

1. 30分未満 2. 30~59分 3. 60~89分 4. 90分以上

【問8】 あなたの友人・知人関係についておうかがいします。

1) この1ヶ月間、友人・知人と何人会いましたか。あてはまる番号一つに○をつけてください。同じ人には何度会っても1人と数えることとします。

1. 0人 2. 1~2人 3. 3~5人 4. 6~9人 5. 10人以上

2) 普段友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。あてはまる番号一つに○をつけてください。

1. ほぼ毎日 2. 週2~3日 3. 週1回程度 4. 月1~2回 5. 年に数回 6. 会っていない

3) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 近所・同じ地域の人 2. 幼なじみ 3. 学生時代の友人 4. 仕事の同僚・元同僚
5. 趣味や関心が同じ人 6. ボランティアなどでお世話してくれる人 7. サロン参加者
8. 一緒にボランティアをする人 9. その他

4) あなたは、近所の人は互いに助け合うという気持ちがあると思いますか。

1. とてもある 2. ある 3. どちらでもない 4. あまりない 5. まったくない

【問9】 次の問を読んで、あてはまる番号一つに○をつけてください。

- 1) 今の生活に満足していますか。————— 1. はい 2. いいえ
- 2) 生きていても仕方がないという気持ちになることがありますか。————— 1. はい 2. いいえ
- 3) 毎日の活動力や世間に対する関心がなくなってきたように思いますか。————— 1. はい 2. いいえ
- 4) 生きているのがむなしいように感じますか。————— 1. はい 2. いいえ
- 5) 退屈に思うことがよくありますか。————— 1. はい 2. いいえ
- 6) 普段は気分がよいですか。————— 1. はい 2. いいえ
- 7) なにか悪いことがおこりそうな気がしますか。————— 1. はい 2. いいえ
- 8) 自分は幸せなほうだと思いますか。————— 1. はい 2. いいえ
- 9) どうしようもないと思うことがよくありますか。————— 1. はい 2. いいえ
- 10) 外に出かけるよりも家にいることのほうが好きですか。————— 1. はい 2. いいえ
- 11) ほかに人より物忘れが多いと思いますか。————— 1. はい 2. いいえ
- 12) こうして生きていることはすばらしいと思いますか。————— 1. はい 2. いいえ
- 13) 自分は活力が満ちていると感じますか。————— 1. はい 2. いいえ
- 14) こんな暮らしでは希望がないと思いますか。————— 1. はい 2. いいえ
- 15) ほかに人は、自分より裕福だと思いますか。————— 1. はい 2. いいえ

【問10】 あなたの今後への自信についておうかがいします。あてはまる番号一つに〇をつけてください。

1) あなたは心身の健康を今後もしばらくは保てる自信はありますか。

1. とても自信がある 2. 自信がある 3. どちらでもない 4. 自信がない 5. まったく自信がない

2) あなたは今後「憩いのサロン」が、地域住民の交流の場になっていくという自信がありますか。

1. とても自信がある 2. 自信がある 3. どちらでもない 4. 自信がない 5. まったく自信がない

【問11】 あなた自身のことについておうかがいします。

1) あなたと同居している家族であてはまるものに〇をつけてください。

1. 一人暮らし 2. 夫または妻 3. その他

2) 性別 _____

1. 男 2. 女

3) あなたの年齢を教えてください。 _____

満 _____ 歳

4) あなたは武豊町にどのくらい住んでいますか。あてはまる番号一つに〇をつけてください。

1. 10年以下 2. 11～20年 3. 21～30年 4. 31～40年
5. 41～50年 6. 51年以上

5) あなたが受けられた学校教育は何年間でしたか。あてはまる番号一つに〇をつけてください。

1. 9年以下 2. 10～12年 3. 13年以上 4. その他

6) あなたの参加している「憩いのサロン」はどちらですか。

あてはまるものすべてに〇をしてください。

1. 大足サロン 2. 上ヶサロン 3. 玉貴サロン 4. 富貴サロン 5. 馬場サロン

7) あなたは、お元気チェックの結果をお知りになりたいですか。

1. はい 2. いいえ

記入もれがないか、もう一度すべてのページの確認をお願いします。

ご協力ありがとうございました。お疲れさまでした。

認知機能検査 MMSE&HDS-R

氏名 男・女 生年月日 年 月 日生
 検査年月日 年 月 日 検査者

質問内容		MMSE	HDS-R
1 お歳はいくつですか(2年までの誤差は正解)	歳	/	0 1
2 今日は何年ですか	年	0 1	0 1
今の季節は何ですか		0 1	/
今日は何月ですか	月	0 1	0 1
今日は何日ですか	日	0 1	0 1
今日は何曜日ですか	曜日	0 1	0 1
3 ここは何県ですか	県	0 1	/
何町ですか	町	0 1	/
どこですか※ヒントなしで可能な場合はHDS-R加2点	病院、施設、家	0 1	0 1 2
何階ですか	階	0 1	/
何地方ですか	地方	0 1	/
4 これから言う3つの言葉を言ってください 後でまた聞きますのでよく覚えておいてください ※3回以内で可HDS-R加2点。6回以内で可MMSE加2点。	a:桜 b:猫 c:電車	0 1 0 1 0 1	0 1 0 1 0 1
5 100から7を順に引いてください。※HDS-R2回、MMSE5回まで (答えは言わずに)さらにそこから7を引いてください。		0 1 2 3 4 5	0 1 0 1
6 数字を逆から言ってください (6-8-2、3-5-2-9)※失敗したら打ち切る	2-8-6 9-2-5-3	/	0 1 0 1
7 先ほど覚えた言葉をもう一度言ってください ※HDS-Rは回答できない場合以下のヒントで返答あれば1点 (a:植物 b:動物 c:乗り物)	a: b: c:	0 1 0 1 0 1	0 1 2 0 1 2 0 1 2
8 これは何ですか (時計、鉛筆)	時計 鉛筆	0 1 2	/
9 これら5つの物品を覚えてください。隠しますので 何があったか言ってください。	時計、鉛筆、鍵 タバコ、硬貨	/	0 1 2 3 4 5
10 次の文章を繰り返して行ってください。 「みんなで力を合わせて綱を引きます」		0 1	/
11 知っている野菜の名前をできるだけ多く言って ください (10秒待っても次の答えが出ない場合は打ち切り) ※同じ名前でないか確認するため右四角に名称記入		/	0 1 2 3 4 5
12 私の指示に従ってください 「右手にこの紙を持ってください」 「それを半分に折ってください」 「机の上に置いてください」		0 1 0 1 0 1	/
13 次の文章を読んで指示に従ってください 「目を閉じてください」		0 1	/
14 何か文章を書いてください※例文は出さない		0 1	/
15 次の図を書いてください		0 1	/
	合計得点	/30	/30

認知機能検査 短縮版

氏名 _____ 年齢 _____ 歳 実施日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

検者: _____

質問内容	回答内容	点数
1 これから言う3つの言葉を言ってください (a:桜 b:猫 c:電車)	a:	0 1
	b:	0 1
	C:	0 1
2 100から7を順に引いてください(5回まで) さらにそこから7を引いてください	93 86 79 72 65	0 1 2 3 4 5
3 先ほど覚えた言葉をもう一度言ってください (回答できない場合以下のヒントで返答あれば1点)	a:	0 1 2
	b:	0 1 2
	C:	0 1 2
4 知っている野菜の名前をできるだけ多く言ってください (10秒待っても次の答えが出ない場合は打ち切り)		0 1 2 3 4 5
合計		／19点満点

握力・立ち上がり

氏名 _____ 年齢 _____ 歳 実施日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

握力	利き手	kg	備考
	右・左		
椅子からの立ち上がり (連続30秒間)		回	

握力:利き手で1度測定
立ち上がり:高さ42cmの椅子を使用

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
認知症予防のための心理社会面に着目した包括的支援に関する研究
分担研究報告書

憩いのサロン事業参加者における心理社会面の2時点間の分析

研究代表者 竹田徳則 星城大学リハビリテーション学部 教授

分担研究者 近藤克則 日本福祉大学社会福祉学部 教授

分担研究者 平井 寛 日本福祉大学地域ケア研究推進センター
主任研究員

研究要旨

高齢社会のわが国では、認知症予防プログラムの開発が求められている。本研究では、ポピュレーション戦略に基づき心理社会面への介入を重視した「憩いのサロン」事業の開始8ヵ月後の中間アウトカムの評価結果を示すことである。対象は、憩いのサロンのボランティア40名（男性7名、女性33名、平均年齢 67.3 ± 4.8 歳）と一般参加者33名（男性8名、女性25名、平均年齢 75.7 ± 6.0 歳）である。認知症と関連のある因子として、心理的機能、社会的機能を評価した。

その結果、心理・社会的機能においてボランティアでは、介入前後でおしゃべり相手（60.0%→87.5%）、人の役に立っている（57.9%→82.5%）、参加者では、おしゃべり相手（42.4%→90.9%）、何かに一緒に取り組む相手（35.5%→69.7%）の増加が見られた。また、双方とも情緒的・情動的各サポートの受領と提供が増えた者が約7割など、心理社会的因子で期待された変化が見られることが示された。

A. はじめに

わが国では、急速な高齢化に伴い認知症高齢者が増加している。2003年には、要介護高齢者約315万人のほぼ半数、施設入所者ではその8割に何らかの認知症の症状があり、2025年には320万人に倍加すると推計されており¹⁾、認知症予防が課題である。

これまで厚生労働省は介護予防の実現には、ハイリスク戦略とポピュレーション戦略の両方による取り組みの必要性があるとしてきた。特定高齢者施策は、ハイリスク戦略であり二次（ハイリスク者の早期発見・早期介入）予防である。しかもそれは対象者の把握が進まないため十分に機能していない²⁾。このため一次

予防のためのポピュレーション戦略にもとづく地域介入プログラムの開発が課題となっている。

本研究の目的は、心理社会面を重視したポピュレーション戦略による一般高齢者対策としての認知症予防のための「憩いのサロン」(以下、サロン)事業^{3, 4)}開始平均8ヶ月後の中間アウトカム(成果)を示すことである

B. 対象と方法

対象は、サロンの運営ボランティア(以下、ボランティア)と一般参加者(以下、参加者)である。評価は、2007年6月下旬から9月上旬とサロン開所8ヵ月目にあたる2008年2月の2回、「お元気チェック」と称して各サロン会場で実施した。2007年の1回目評価には、ボランティアと参加者それぞれ52名と50名、2回目と同様に55名と109名の参加であった。

本報告での分析対象は、サロン開始前後2時点共評価を受けたボランティア40名(男性7名、女性33名、平均年齢 67.3 ± 4.8 歳)と参加者33名(男性8名、女性25名、平均年齢 75.7 ± 6.0 歳)である。

心理社会的因子として、A)心理的機能、B)社会的機能を評価した。A)心理的機能では、主観的健康感やうつ(GDS15項目版)、B)社会的機能には、おしゃべり相手の増加、社会的サポートの受領と提供、老研式活動能力指標13項目、外出頻度などを用いた。

分析にあたっては、主観的健康感については、とてもよい・まあよいを選択した者を「よい」、あまりよくない・よくな

い・とてもよくないと選択した者を「よくない」に分けた。GDSは5点未満を「うつなし」、5点～15点を「うつ傾向・状態」とした。

おしゃべり相手の増加、何かに一緒に取り組む相手の増加、少しは人の役に立っているについては、それぞれ6ヶ月前と比べて、とてもそう思う・そう思うと選択した者を「増加」、どちらでもない・思わない・まったく思わないは「増加なし」とした。社会的サポートの各サポートでは、1回目はそれぞれの有無、2回目がサロンに参加するようになってからのそれぞれの増加について、とてもそう思う・そう思うと選択した者を「増加」、どちらでもない・思わない・まったく思わないは「増加なし」に分けた。老研式活動能力指標では、下位項目の回答について、「はい」を1点、「いいえ」を0点とし、手段的自立(5点満点)、知的能动性(4点満点)、社会的役割(4点満点)に区分した。外出頻度は、ほぼ毎日・週2～3回を選択した者を「週複数回」、週1回程度・月1～2回・年数回を「週1回以下」に分類した。

統計的分析には、対応のあるt検定と χ^2 検定、Wilcoxonの符号付順位検定を用い5%未満を有意水準とした。

なお、本研究は星城大学研究倫理審査委員会の承認を受け、武豊町との間で定めた研究協定を遵守したものである。

C. 結果

対象者の基本属性と評価結果を表に示した。基本属性では、ボランティア・参加者ともに女性が8割と多かった。平

均年齢は、ボランティアに比べて参加者の年齢が有意に高かった ($p < 0.01$)。一方、ボランティアでは、教育年数 10 年以上の割合が参加者よりも有意に多かった ($p < 0.001$)。

初回評価結果

初回評価結果では、ボランティアでは、心理社会面の主観的健康感「よい」とうつ「なし」が 80%、各種サポートの受領と提供「あり」が 95%、老研式活動能力指標の下位 3 区分それぞれは満点に近かった。一方、6ヶ月前と比べておしゃべり相手の増加や少しは人の役に立っていると回答した者は 60%程度であった。

参加者では、心理社会面の各種サポートの受領と提供「あり」が 80%であった。主観的健康感「よい」やうつ「なし」は 70%、6ヶ月前と比べておしゃべり相手の増加や、少しは人の役に立っていると回答した者は 40%程度で半数以下という結果だった。また、老研式活動能力指標では、手段的自立、知的能動性、社会的役割の順で低下傾向にあった。

2 時点間の比較

2 時点間での変化では、ボランティアでは、おしゃべりする相手の増加 (60.0% が 87.5%、 $p < 0.05$)、少しは人の役に立っている (57.9%→82.5%、 $p < 0.01$) が、有意に高まっていた。認知面では、MMSE の平均は 27.9 点から 28.8 点 ($p < 0.05$)、3 単語遅延再生可 (60%→87.5%、 $p < 0.001$) であった。参加者では、おしゃべり相手の増加 (42.4%→90.9%、 $p < 0.001$)、何かに一緒に取り

組む相手の増加 (35.5%→69.7%、 $p < 0.01$) という結果であった。

社会的サポートでは、ボランティアにおいては、サロンに関わるようになってから手段的サポートの受領増加は 35%、情緒的サポートと情報的サポートの受領と提供が高まったと回答した者はさらに多く 70%程度いた。参加者では、手段的サポートの受領と提供や情報的サポートの提供が、増加したと回答した者は半数程度、情緒的サポートの受領と提供、情報的サポートの受領が高まった者が 70%を上回っていた。

一方、2 時点間において有意な変化が見られなかったものは、ボランティアでは、主観的健康感「よい」、うつ「なし」、一緒に何かに取り組む相手の増加、老研式活動能力指標だった。参加者でもボランティアと同様の傾向がみられた。

D. 考察

今回の対象者では、ボランティアは 70 歳弱で教育年数が長く、主観的健康感が「よい」、うつ「なし」、老研式活動能力指標は満点に近いが、認知面では一部に低下が疑われる者がその役割を担っていた。また、参加者には、比較的心理社会面の良好と思われる者が多い反面、認知症の初期症状である⁵⁾ 知的能動性や社会的役割の低下がある者が含まれていた。

また、ボランティアと参加者ともに基本チェックリストでみた認知症のリスク者が含まれている可能性が考えられた。つまり、住民による自律運営型を志向したサロンは、ポピュレーション戦略であるにもかかわらず、潜在的なハイリスク

者にも社会参加と社会的役割など新たな出番を提供でき、地域在住高齢者が気軽に参加できる事業である可能性を示している。

2時点間の変化としては、ボランティアでは、主観的健康感やうつ、一緒に何かに取り組む相手の増加、老研式活動能力指標には有意な変化は見られず、ベースライン時の心理社会面の良好な状態が維持されていた。

反面、おしゃべり相手の増加や人の役に立っているが増加していた。これは、サロン開所に向けた準備期間中にボランティア間での交流が増し、サロンの開所と継続した運営過程への関与が少なからず自信となり効力感の高まりへとつながったと考えられる。サロンへの参加が単なる参加ではなく、ボランティアとして運営に関わるという、より積極的で知的、身体的、社会的活動を要する高齢者の社会参加は、心理社会的健康により効果をもたらす可能性がある⁶⁾。

つまり、今回のように地域住民をボランティアとして人材活用していくことは、国の進めている高齢者の生きがい対策⁷⁾にとどまらず、高齢者の心理社会面の改善に有効な可能性があり、長期的視点に立てば介護予防や認知症予防の効果が期待できるものと考えられる。

一方、参加者では、主観的健康感やうつ、少しは人の役に立っている、老研式活動能力指標、認知面には有意な変化はみられなかった。しかし、おしゃべり相手の増加と何かに一緒に取り組む相手の増加がみられ、サロンがこれらを高める場となっていた。

また、ボランティアと参加者ともにサロンへの参加によって、各種サポートの受領と提供の両方が増加したと回答した者が多く、月1回～2回の開催に過ぎないが、それでも地域住民の健康に良いとされるサポートの授受双方^{8,9)}は高まる可能性が示された。ポピュレーション戦略によるアプローチを志向したサロンは、そこでの出会いとおしゃべりなどを介して、特に情緒的サポートと生活に役立つ情動的サポートの拡充につながる場になり得ていた。

高齢者の予防事業への参加促進には、会場までのアクセスの改善が必要であることが指摘されている¹⁰⁾。つまり、地域住民の近隣で開催される多拠点開催型のサロンは、従来の保健センターなどで行われてきた単一拠点開催型の予防事業への参加に比べて、アクセスしやすく参加者の増加と心理社会面の変化を期待できるものといえる。そのため地域開催型サロンを、今後より多拠点で展開していくことが必要であると考えられる。

今回の結果は、評価としてのお元気チェックを主体的に受けた高齢者という選ばれた高齢者の特徴を示しており、今回得られた知見が高齢者全体にはあてはまらない可能性もある。今後は、非ボランティア、非参加者を対照群とした比較、長期介入と長期追跡によるサロン参加の有無と認知症発症との関連、費用対効果などを検証していくことが課題である。

E. 結論

心理社会面に着目した認知症予防のための介入プログラムの開発とその中間ア

ウトカムの評価を行なった。今回8ヵ月と短期間の観察にとどまるが、サロン開始前後の効果では、次のような心理社会面での改善が観察された。サロンへの参加はボランティアと参加者ともにおしゃべり相手の増加、各種サポートの受領と提供双方の拡充につながっていた。また、ボランティアでは人の役に立っているという効力感の高まり、参加者では、何かに一緒に取り組む相手の増加など、認知症予防に良いとされる対人交流の豊かな状態が増えていた。これらがサロンによってもたらされているのか、認知症あるいは要介護者数の減少という最終アウトカムが得られるのか、さらなる研究が必要と思われた。

本研究にご協力いただいたサロンのボランティアならびに参加者、武豊町職員に深謝申し上げます。

F. 文献

- 1) 高齢者介護研究会：2015年の高齢者介護－高齢者の尊厳を支えるケアの確立に向けて－。2003
- 2) 厚生労働省老健局振興課・老人保健課。地域包括支援センター・介護予防事業担当者会議資料（平成19年3月14日開催）。2007。
- 3) 竹田徳則：介護保険におけるリハビリテーションの実践3 介護予防認知症。作業療法ジャーナル42(7)、665-669, 2008
- 4) 近藤克則, 渡辺邦夫：介護予防における健康格差とポピュレーション・アプローチOTの役割と集団の重要性。作業療法ジャーナル42(12):1207-1215, 2007
- 5) 目黒謙一：痴呆の臨床。神経心理学コレクション, 山鳥重, 彦坂興秀, 河村満, 田邊敬貴(編), 医学書院, 東京, 2004。
- 6) 近藤克則：健康格差社会－何が心と健康を蝕むのか－。医学書院, 東京, 2005。
- 7) 内閣府(編)：高齢社会白書19年版。ぎょうせい, 東京, 2007。
- 8) 斎藤嘉孝：社会的サポート。近藤克則(編), 検証「健康格差社会」介護予防に向けた社会疫学的大規模調査。医学書院, 東京, 2007。91-97。
- 9) 吉井清子, 近藤克則, 久世淳子, 樋口京子：地域在住高齢者の社会関係の特徴とその後2年間の要介護状態発生との関連。日本公衆衛生雑誌52:456-467, 2005
- 10) 平井寛, 近藤克則：高齢者の町施設利用の関連要因分析－介護予防事業参加促進に向けた基礎研究。日本公衛誌55(1):37-45, 2008

G. 健康危険情報

該当なし

H. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 竹田徳則, 近藤克則, 平井寛：心理社会的因子に着目した認知症予防のための介入研究－ポピュレーション戦略に基づく介入プログラム理論と中間アウトカム評価－。作業療法。印刷中
- 2) 竹田徳則：介護保険におけるリハビリテーションの実践3 介護予防認知症。作業

療法ジャーナル 42 (7), 665-669, 2008

2. 学会発表

- 1) 竹田徳則: 認知症と作業療法—早期から慢性期その可能性を探る—. 第8回東海北陸作業療法学会, 教育セミナー, 長良国際会議場, 2008. 11. 8-9
- 2) 竹田徳則, 近藤克則, 平井寛, 他: 一般高齢者対策「憩いのサロン」事業参加高齢者の心理社会面の2時点間での変化. 第43回日本作業療法学会. (郡山市, 2009. 6. 19-21)

- 3) 木村大介, 竹田徳則, 近藤克則, 他: 一般高齢者対策「憩いのサロン」事業参加高齢者の心理社会面の2時点間での変化. 第43回日本作業療法学会, 2009. 6. 19-21.

- I. 知的財産の出願・登録状況
該当なし

表 基本属性と評価結果の一覧

基本属性	人数 平均年齢	ボランティア 40名		参加者 33名		p値
		N	%	N	%	
			67.3±4.8歳		75.8±6.0歳	**
女性		33	82.5	25	75.8	n.s
独居		4	10.0	10	30.3	n.s
居住40年以上		18	45.0	22	66.7	n.s
教育年10年以上		30	75.0	10	30.3	***

	1回目		2回目		p値	1回目		2回目		p値
	N	%	N	%		N	%	N	%	
主観的健康感よい	38	95.0	38	95.0	n.s	26	78.8	28	84.8	n.s
うつなし	33	82.5	36	90.0	n.s	22	66.7	25	75.8	n.s
おしゃべりする相手の増加	24	60.0	35	87.5	*	14	42.4	30	90.9	***
何かと一緒に取り組む相手の増加	26	66.9	31	77.5	n.s	11	35.5	23	69.7	**
少しは人の役にたっている	22	57.9	33	82.5	**	15	45.5	23	69.7	n.s
情緒的サポート提供してくれる人いる	39	97.5	29	72.5	-	32	97.0	29	87.5	-
してあげる人いる	40	100	35	87.5	-	30	90.9	25	75.8	-
手段的サポート提供してくれる人いる	40	100	14	35.0	-	32	97.0	17	51.5	-
してあげる人いる	40	100	26	65.0	-	28	84.8	17	51.5	-
情報のサポート提供してくれる人いる	38	95.0	33	82.5	-	28	84.8	26	78.8	-
してあげる人いる	39	97.5	25	62.5	-	27	81.8	15	46.9	-
手段的自立5点満点	39	97.5	39	97.5	n.s	28	84.8	28	84.8	n.s
知的能動性4点満点	38	95.0	36	90.0	n.s	23	69.7	24	72.7	n.s
社会的役割4点満点	37	92.5	37	92.5	n.s	15	45.5	21	63.6	n.s
外出週2-3回以上	38	95.0	39	97.5	n.s	28	84.8	28	84.8	n.s

注:各サポート2回目はサロン参加で増加したと回答した者を示す

注:基本属性p値は年齢調整済み

*:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001, n.s : not significant